

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)

2022 年度(令和 4 年度) 事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

令和 5 年 3 月 31 日

<2022 年度(令和 4 年度) 総括>

○15 周年記念展示、フォーラム

2007 年から 15 年周年を迎えた 7 月下旬～8 月上旬にかけて、横浜市役所にて記念展示とフォーラムを開催しました。展示では、アーティストやクリエイターが社会の様々な分野に関わり、具体的なデザインや商品、作品というかたちで、にぎわい創出や社会課題解決に寄与している様子を多くの市民にご覧いただきました。また、フォーラムでは、前半、アーツコミッション・ヨコハマが、現在国内で増えている「地域アーツカウンシル」の先駆的存在としてこれまで取り組んでいきた成果を共有。後半は、横浜の郊外の魅力をあらためてとらえなおし、日頃から子育てや地域まちづくりに取り組むゲストをお招きして、横浜の未来について語りあいました。

○相談事業

これまでの積み重ねから専門的な協議、助言を求める相談が増えてきています。今年度の特徴として、「子どもにクリエイティブな体験をさせたい」という相談がいくつかあり、それをクリエイターの力をもって解決できたことです。横浜青年会議所から環境意識を高めるイベントの中で廃品物を使ったアップサイクルのワークショップをしたいという相談があり、ファッションやグラフィックのデザイナーと協働して実施しました。また、鶴見区旭小学校からの相談は、プロジェクト型学習におけるキャラクターデザインの相談でした。当方では、これを学校や地域への誇りを養うブランディングの学習機会をとらえ、クリエイターにプログラムを実施いただきました。学校、教育委員会からも高く評価され、市役所 1 階で行うはまっ子未来カンパニープロジェクトの報告会に選ばれています。

また、企業から街のにぎわいづくりのために壁画を施行したい相談へは、屋外広告物条例に関する庁内の調整やアートディレクターの選定など、実施計画策定の支援をしています。

また、アーツコミッション・ヨコハマ事業が文化行政のなかで、先駆的活動を行っていることから、東京都、千葉県、長野県、佐賀県、台東区、名古屋市等等の他の地方公共団体からのヒアリングを受け、助言や調査に協力しています。

○助成事業

2016 年度からの積み重ねにより、制度として成熟し大きな成果をあげています。若手芸術家を支援する U39 アーティスト・フェロシップ助成においては、資金支援だけでなく伴走型支援を徹底し、国内外へ活動が広がることをサポートしています。結果として、横浜から世界へ羽ばたくアーティストが生まれています。

○プラットフォーム事業

「文化芸術創造都市プラットフォーム」は、オンラインではなく、リアルで開催することにこだわり、ハマの大喜利」で MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)をテーマにクリエイター、企業、行政等が交流する機会をつくりました。また、15 周年記念で好評だったフォーラムを定期開催のプログラムにし、引き続き横浜各地で地域に開かれた拠点運営する市民の方にお集まりいただき、「横浜の暮らしから見える文化とまちづくり」をテーマに事例紹介と議論を行いました。

「関内外 OPEN!」は、関内をはじめとする横浜各地の企業や住民と連携したツアープログラムをクリエイターがコンダクターとなり、街の魅力を紹介。クリエイターのスタジオをめぐるながら、地域経済、観光、環境、福祉、教育等の分野にかかわり、生活に密接した仕事をする日常をご覧いただきました。

「ミナトノアート」は、2 年目として外部資金を獲得して、自主企画を増やしました。まちなかソーシャル AR アートを国内他都市に先駆けて実施、また障害福祉施設との連携企画や、百貨店との協働など、アートをもっと身近にするプログラムを多数展開しました。また、市民主導の実行委員会を形成し、運営基盤を整える方向へと動いています。

○創造都市プロモーション

「横浜市クリエイターデータベース」は、毎月定期的に問い合わせがあり、登録を求めるクリエイターの需要にあわせて純増しています。また、アーツコミッション・ヨコハマの発信力向上を狙い、令和 5 年度に向けて、同ホームページと WEB マガジン「創造都市横浜」を融合させる準備を行います。

1 アーツコミッション・ヨコハマ 15 周年記念事業

アーツコミッション・ヨコハマ(以下 ACY)が、2007 年7月にはじまり、2022 年に 15 周年を迎えました。これを記念して、これまでの活動をプロモーションする展示、また横浜の未来を議論するフォーラムを開催しました。

(1) アーツコミッション・ヨコハマ 15 周年記念展示 「クリエイターがいる YOKOHAMA」

横浜市庁舎 2 階の壁面にクリエイターが生み出した風景を 100 枚のパネルで展示し、身近な生活から企業や行政の施策まで、様々な場面で社会に関わるクリエイターの活動を紹介しました。あわせて、来場者に「横浜」と感じる風景に投票してもらい、これからの横浜を一緒に考えていく機会としています。

会期:2022 年 7 月 21 日(木)~8 月 12 日(金)

会場:横浜市庁舎2階 展示スペース C

パンフレット配布数:1169 部

アンケート回答数 :230 名

アンケート回答率(回答数/配布数) 約 25%



〈連携企画〉

クリエイターがいる YOKOHAMA ブックフェア

横浜市庁舎にあるHAMARU (ラクスス フロント内)とタイアップし、ブックフェアを開催しました。展示に関連するクリエイター等が関わる、アートやデザインの本の販売を行っていました。

(2)アーツコミッション・ヨコハマ 15 周年記念フォーラム 「クリエイターとともに都市と芸術の交わる“新領域”をさがす」

これまで ACY は 15 年で芸術×不動産、芸術×社会包摂、芸術×地域経済など様々なテーマで実験的プログラムを行ってきました。今回のフォーラムでは、15 年間の都市環境の変化をふまえ、芸術文化、まちづくり、教育、子育て、新しい働き方、シビックエコノミーなどをテーマに、“都心／郊外”それぞれの活動や場の可能性を議論。横浜の“今”を知り、登壇者や来場者とのネットワークを深める機会としました。

日時:2022 年 8 月 4 日(木)14:00~17:00
会場:横浜市役所1階 横浜市民協働推進センター
入場者 総数 72 名

第一部

①「アーツコミッション・ヨコハマの 15 年」を振り返る

登壇者:鈴木敦(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 ACY・協働推進グループ 担当グループ長)

②ミニ講演「ACY から地域アーツカウンスルを考える」

日本初の地域アーツカウンスルであるアーツコミッション・ヨコハマ。そもそもアーツカウンスルとは何か。その発祥とされる英国アーツカウンスルの原点を振り返りながら、日本における地域アーツカウンスルの潮流や役割について、専門家にお話しを伺います。

登壇者:吉本 光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

第二部

発表「アーツコミッション・ヨコハマの現在の活動を協働パートナーとの対話から」

現在アーツコミッション・ヨコハマと一緒にプロジェクトを進める当事者をお招きし、横浜という場、ACY というプラットフォームを使って成し遂げたいことを担当と対話形式でお話します。

①「クリエイターの町内会をつくる」(関内外 OPEN!)

登壇者:安食 真(studio nibroll 所属クリエイティブディレクター／デザイナー、関内外 OPEN!幹事)

聞き手:小原 光洋(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 ACY・協働推進グループ担当)

②「町方の若手がつくるアートイベント」(ミナトノアート)

登壇者:田口 竜太郎(Gallery+Sushi あまね店主、ミナトノアート 2022 実行委員会委員長)

大野 愛(油彩画家、ミナトノアート 2022 実行委員会副委員長)

聞き手:増田 修一(横浜市文化観光局創造都市推進課 課長補佐)

③「アートマネジメントの変革は当事者から」(クリエイティブ・インクルージョン活動助成)

登壇者:小笠原 新也(手話マップスタッフ)

聞き手:小原 光洋

④「公民連携による新しい文化拠点のつくり方」(BUKATSUDO)

登壇者:川島 史(BUKATSUDO マネージャー)

聞き手:小原 光洋

⑤「アーティストを育む都市・横浜」(各種助成)

登壇者:渡辺 篤(現代美術家)*オンライン参加

聞き手:小原 光洋

第三部

ディスカッション「横浜都心と郊外、“次なる新領域”を生み出す場とは？」

芸術文化、まちづくり、教育、子育て、新しい働き方や市民経済活動などをテーマに、「都心／郊外」それぞれの場の可能性を議論していきます。芸術と社会がつながることで起きる可能性の広がり、深まりをお話いただきます。

モデレーター：

藤原 徹平（建築家、横浜国立大学大学院准教授、フジワラテッペイアーキテクトラボ主宰）

パネラー：

熊谷 玄（ランドスケープデザイナー、STGK Inc. 代表）

後藤 清子（株式会社ピクニックルーム 代表）

森 祐美子（特定非営利活動法人こまちぶらす 理事長）

森川 正信（クリエイティブディレクター、マスマススクエア株式会社代表）



〈実施した意義：アンケートやメディアの反応より〉

- ・ACY の活動の広がり、街にクリエイターがいる意義をあらためて感じたとする声多数。
- ・アンケート結果では、公務員以外の市民の方に多く見られていたことがわかり、反応をもらっている。
- ・メディア取材からは、芸術が特別なものではなく、市民生活に身近なものと理解したとの声あり
- ・クリエイターのシビックプライド、横浜市の施策や ACY への愛着をさらに高めた。
(SNS での当事者の投稿多数、総じて感謝のコメントや、こういう横浜が好きだと自己肯定の声)

2 相談業務

相談件数(2022年4月～2023年3月) 総数 120

内容	件数	相手方	件数
専門協議・助言	62	アート系	35
紹介／マッチング	14	クリエイター系／創造産業系	23
DB登録希望	12	一般企業	23
広報支援	11	行政	16
助成	9	市民団体	12
視察／調査／取材	5	大学	3
情報提供	5	オーナー	0
移転	0	マスコミ	1
その他	2	その他	7
合計	120	合計	120

〈具体的なマッチング事例〉

- ・横浜青年会議所様の「オープンイノベーション委員会」からのご相談
子ども向けに環境教育につながるクリエイターのワークショップを開催して欲しい



GLOBAL SUNDAY MARKET 2022(大通り公園)で、ものづくりワークショップを開催
関内外 OPEN!クリエイターズ(スタジオニブロール、14products、ピクニックルーム)

- ・横浜市立旭小学校(鶴見区)からプロジェクト型学習の講師になるクリエイター紹介の依頼
学校のマスコットキャラクターデザインを通じたブランディングに関する授業を展開



セルディビジョングループ株式会社セルインタラクティブの大塚未来さんと松田柊子さんによる

2 助成

横浜市では、文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成(クリエイティブ・チルドレン)を幅広く展開しています。これらの趣旨のもとアーツコミッション・ヨコハマ事業として活動助成プログラムを実施しています。

「U39 アーティスト・フェローシップ」は、横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。これにより、横浜から世界に発信されるアーティストが誕生しています。

(1)2022 年度 U39 アーティスト・フェローシップ

応募総数:56 件 (美術 29 件、舞台芸術 27 件)

採択件数:5 件 ※うち継続 2 件

交付総額:5,000,000 円

募集期間:2022 年 2 月 25 日(金)~4 月 15 日(金)

審査会:2022 年 5 月 26 日(木)、報告会:2023 年 3 月 15 日(水)

審査員:

相馬 千秋 NPO 法人芸術公社代表理事、アートプロデューサー)

藤原 徹平 (フジワラテッパイアーキテクツラボ代表、横浜国立大学大学院 Y GSA 准教授)

山峰 潤也 (東京アートアクセラレーション共同代表、ANB Tokyo ディレクター)

小野 晋司 (横浜赤レンガ倉庫 1 号館館長、チーフプロデューサー)

木村 絵理子 (横浜美術館主任学芸員)

① 佐藤 朋子 (アーティスト) 継続

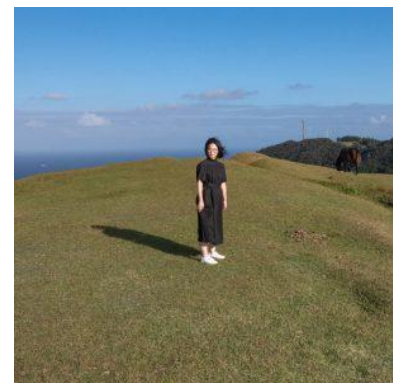
助成額:1,000,000円

プロフィール:1990年長野県生まれ、神奈川県在住。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。日本が辿りたいびつな近代化への道のりや、大文字の歴史からこぼれ落ちてしまった出来事が物語る歴史の複数性への関心から調査を行い、物語を構築する。最近の活動に『オバケ東京のためのインデックス』(シアター commons、2021年~)『TWO PRIVATE ROOMS - 往復書簡』(青柳菜摘との共作、2020年~)など。

サポート内容:中間面談における審査員等によるメンタリングや視察、都度の相談対応など。

本助成で実施した活動:

- 『103系統のケンタウロス in 2022』のためのリサーチ、ウェブサイト「草食む間」の制作
- 『ツル／アンティゴネ』制作とリーディング・トークイベント、等の開催(城崎国際アートセンター)
- 「狐・鶴・馬」開催。レクチャーパフォーマンス『Song of the Fox』の制作(長野県立美術館)



横浜を拠点にし、国内でさまざまなプロジェクトに取り組み、リサーチを深化させたとともに、独自のネットワークを築きました。また、いままでの発表形態とは異なる「テキスト」という手法を取り入れたウェブサイトを整えるなど、次につながる活動を展開しました。

② 佐藤未来（アーティスト） 継続

助成額：1,000,000円

プロフィール：アーティスト。東京藝術大学大学院後期博士課程映像研究科に在籍。日本とオランダを拠点に研究、制作を行う。さまざまな場所のフィールドワークをベースに、そこに住む人々を起用してプロジェクトを立ち上げていく。映像インスタレーション、ワークショップなどを用い、歴史をオルタナティブなかたちで再演することを試みる。主な個展に2020年「Girls Got Golds」puntWG(アムステルダム)、主な上映に2022年「TENT Online Cinema」TENT Rotterdam(ロッテルダム)など。



サポート内容：中間面談における審査員等によるメンタリング

本助成で実施した活動：

- 『Book and Knife』の上映(ロッテルダム国際映画祭)
- ソビエト政府が発行した料理本のリサーチ
- キッチンロボットについてのリサーチ

ロシアによるウクライナ侵攻の影響により、リサーチや創作活動が計画通りにいかない等の事情がありました。その中でも、新たなリサーチテーマを発掘するなど、柔軟に対応して独自の創作活動を実施しています。また、ロッテルダム国際映画祭に作品が選出される等、活躍の場を広げています、

③ 下島 礼紗（振付家・ダンサー） 新規

助成額：1,000,000円

プロフィール：振付家・ダンサー。7歳から地元鹿児島でよさこい踊りやジャズダンスなど様々なダンスに取り組む。桜美林大学在学中に木佐貫邦子にコンテンポラリーダンスを学び、以降はダンス、演劇を問わず客演を重ねる。2013年「ケダゴロ」を結成し、以降、全作品の振付・構成・演出を行う。自身のソロ活動も併行して行い『オムツをはいたサル』(2017年初演)は国内外10カ所以上のフェスティバルで上演し多数の賞を獲得。横浜ダンスコレクション 2017「最優秀新人賞」「タッチポイント・アート・ファウンデーション賞」受賞。2021年には韓国国立現代舞踊団委嘱作品として『黙れ、子宮』(振付・出演)を上演。2022年度より公益財団法人セゾン文化財団セゾンフェロー。



サポート内容：中間面談の際の審査員等によるメンタリングや視察など。

本助成で実施した活動：

- ケダゴロ『ビョーズカズコース』ツアーの開催(秋田、東京、静岡)

自身のカンパニー、ケダゴロの過去作品のリクリエーションにおいて、大がかりな舞台装置を用い、スペクタクルな作品へ昇華させることができました。また、三都市でのツアーを実施し、今後のクリエイションのアイデアをより飛躍させるためのベースを築くことができた一年となりました。

④ 小暮 香帆(ダンサー・振付家) 新規

助成額:1,000,000 円

プロフィール:自身の作品を発表しながら劇場、音楽ライブ、メディアなど様々な領域で活動。ソロ作品「ミモザ」(2015)は初演以来 3ヶ国 9都市で上演。また笠井勲をはじめ多数振付家作品に出演、海外ツアーに参加。近年はオーケストラ、他ジャンルのアーティストとのコラボレーション、グループ作品、映画の振付もおこなう。第2回セッション・ベスト賞、第6回エルスール財団新人賞受賞。Dance Base Yokohamaレジデンスアーティスト。めぐりめぐるものを大切に踊っている。

サポート内容:中間面談の際の審査員等によるメンタリングや視察など。インタビュー記事制作・出稿

本助成で実施した活動:

○ソロ活動10周年公演『Dear』の開催(BankART Station)



活動10年の節目として開催したソロ公演では、横浜を拠点に集中的かつ開放的なクリエイションに取り組むことができました。企画、制作、上演までのプロセスの中で、今後の活動への手がかりを見つけることができ、次につながる活動となりました。

⑤ ジョイス・ラム(映像作家、編集者) 新規

助成額:1,000,000 円

プロフィール:香港生まれ。2022年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。映像作品やレクチャーパフォーマンスの制作を通して「家族」の定義を捉え直す。国や組織が作る複数の家系図を用いた修了制作の「家族に関する考察のトリロジー」を、TOKAS-Emerging 2022の個展として発表(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2022年)、および横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)フリンジ2021にて自宅で上演。現在、「Bauhaus Lab 2022: Camps for Liberation」(バウハウス・デッサウ財団)のプロジェクトリサーチャーとしてドイツに滞在中。

サポート内容:中間面談の際の審査員によるメンタリングや視察など。

本助成で実施した活動:

○エクササイズブック『生まれてきたあなたは縦単線の先にいる』の制作・刊行

○バウハウス・デッサウ財団主催のリサーチ・レジデンス「Bauhaus Lab 2022」に参加



「Bauhaus Lab 2022」への参加を通じ、ドイツで作品を発表することができ、国外での活動の地盤を整えました。また、横浜の歴史にもつながる新たなリサーチテーマに取り組むと同時に、エクササイズブックを刊行するなど、表現の幅をひろげることができました。

3 文化芸術創造都市プラットフォーム

(1)ハマの大喜利



「もっと横浜を魅力的に、もっとアートやデザインを身近に」を合言葉に横浜の未来に向けて、人の出会い、業界やセクターを越えた横のつながりを生み出す企画「ハマの大喜利」を横浜の経済人、クリエイター、横浜市芸術文化振興財団が共同で実施しています。

第 5 回開催「移動を促すプロジェクトとは何か？」

世話人：山内英志（株式会社アットヨコハマ取締役、横浜トヨペット株式会社執行役員）

東昭人（株式会社アットヨコハマ取締役、株式会社 KT グループ専務取締役）

* 山内氏は当日欠席

幹 事：菊嶋秀生、岡部祥司

日 時：2022 年 6 月 30 日（水）

会 場：カフェクリックス（神奈川県横浜市神奈川区栄町71my X ビル グッドオープンエアズマイクス内 B1F）

テーマ：株式会社アットヨコハマが運営するアプリ「マイルート」

プレゼンター：

- 椿直樹（TSUBAKI 食堂オーナーシェフ）
- イクタケマコト（イラストレーター）
- 長谷川篤司（認定 NPO 法人 ARCSHIP アークシップ代表）

参加者：32 名

世話人は、マイルートを運営するアットヨコハマ。MaaS に関するアプリケーションサービスであるが、サービスの利用促進するには、そもそも人が動きたくするコンテンツの魅力が必要です。それについて、オリジナルのコンテンツを持つクリエイターから3つのプレゼンテーションが行われました。世話人のみならず参加者からの意見も多数出て、地域全体の活性化につながるアイデアがいくつも話しあわれました。クリエイターと企業の協働のきっかけづくりとして成果をあげています。

(2)ACY フォーラム vol.2

「横浜の暮らしから見える文化とまちづくり」

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)が注目する場と人を紹介し、創造性を軸に横浜の地域の未来を議論するACYフォーラム。昨年8月ACY15周年記念で開催しまして、好評をいただきましたので第2回目を開催。そのときのテーマをより具体化していくために「横浜の郊外地域における文化の多層化と複合化」へと深めた。いま住宅地に増えているクリエイティブな拠点とその活動を紹介し、登壇者による議論が行われた。



日時:2023年3月21日(火・祝)15:00~17:00

会場:BUKATSUDO HALL(横浜市西区みなとみらい 2-2-1 ランドマークプラザ地下1階)

参加費:500円

定員:30名

第一部

各地の暮らしのご紹介

①中山(緑区)、古民家発、シェアハウスからシェアライフへ

登壇者:大谷 浩之介(753 プロジェクトメンバー)

紹介した場所:753 VILLAGE

②篠原町(港北区)、住民が愛する元郵便局を改装してコミュニティの場に

登壇者:若林 拓哉(株式会社ウミネコアーキ代表取締役・つばめ舎建築設計パートナー)

紹介した場所:ARUNŌ -Yokohama Shinohara-

③星川・天王町(保土ヶ谷区)、高架下をひらいて暮らしをアップデート

登壇者:小杉山 祐昌(株式会社相鉄アーバンクリエイツ 事業推進部)

相馬 由季(YADOKARI 株式会社 事業推進室/エリアイノベーションユニットマネージャー)

紹介した場所:星天 qlay

④藤棚(西区)、南太田(南区)他。小さくはじめる人が集まり、地域とつながり、商う

登壇者:永田 賢一郎(建築家、YONG architecture studio)

紹介した場所:藤棚デパートメント、他

第二部

「横浜の暮らしから見える文化とまちづくり」登壇者によるクロストーク

登壇者:大谷 浩之介、若林 拓哉、小杉山 祐昌、相馬 由季、永田 賢一郎

コメンテーター:後藤 清子(株式会社ピクニックルーム 代表取締役)

下吹越香菜(アカデミック・リソース・ガイド株式会社取締役)

今回紹介した郊外区の拠点を一同に介した機会は初であるためか、来場から多くの関心を集めた。各活動の魅力が、参加者に伝わったことが来場者アンケートからも見て取れた。また、こうした拠点群にみる郊外の文化多様性は、都市部にあるような特定芸術分野の施設とは異なる可能性を持っている。多世代で多様な生活者が集まることであらわれる横浜の魅力があり、その担い手がつなげることで次のアクションが生まれ、さらなる魅力が横浜に生み出されることを今後も狙っていく。

4 創造都市プロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取り組みについてアートやデザインのファンに向けて広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなどを、ウェブサイト(SNS 含む)を運用して発信しました。

(1) WEB マガジン『創造都市横浜』

創造都市横浜の魅力を紹介するメディア。Facebook、Twitter 等の SNS と連動し、取材・執筆を基本に「読みもの」として情報発信を行いました。

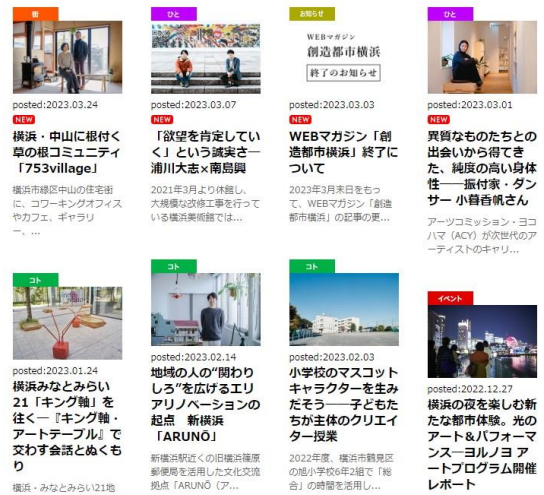
URL : yokohama-sozokaiwai.jp

掲載記事 : 28 本、Facebook : 248 本、Twitter : 295 本

編集方針 : アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物としてストーリー性を加えて紹介。クリエイティブな視点で横浜の人や街を取材し、①特集、②ひと、③モノ、④コト、⑤街、⑥食、⑦コラム、⑧イベントの categories を設け、記事を作成。今年度は、地域の取組や活動を積極的に取り上げるようにしました。

①アクセス数 (2022年4月1日～2023年3月31日)

月	記事数		アクセス数	
	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)
4	5	5	57,203	61,302
5	3	1	55,397	36,783
6	2	3	58,427	45,028
7	2	2	53,913	49,589
8	2	2	57,989	33,206
9	2	3	60,464	49,919
10	2	3	73,366	61,397
11	1	2	50,250	49,034
12	3	3	54,558	58,726
1	1	3	73,474	71,869
2	2	1	57,935	47,027
3	3	3	81,755	60,682
合計	28	31	734,731	624,562



②Facebook インプレッション数 (2022年4月1日～2023年3月31日)

月	投稿数		合計リーチ数		合計インプレッション数		ページに対するいいね数	
	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)
4	23	18	27,715	35,343	28,862	17,098	20,358	20,475
5	19	13	27,850	17,805	28,570	18,224	20,359	20,458
6	22	17	29,625	24,979	34,554	25,401	20,355	20,434
7	19	25	30,059(広告使用)	35,853	25,450	36,605	20,377	20,435
8	17	27	41,252(広告使用)	43,825	22,413	45,235	20,411	20,417
9	25	31	35,897	44,916	36,120	46,209	20,432	20,397
10	24	32	49,259(広告使用)	41,440	66,577	42,583	20,431	20,389
11	24	28	32,241	37,346	33,166	38,696	20,425	20,385
12	24	32	32,511(広告使用)	35,564	34,933	37,302	20,418	20,372
1	23	34	26,362	46,812	27,386	61,295	20,424	20,368
2	13	36	14,373	41,262	15,203	41,973	20,411	20,372
3	15	38	22,440	47,992	23,506	47,347	20,393	20,382
合計	248	331	216,503	453,137	376,740	457,968		

③Twitter フォロワー数（2022年4月1日～2023年3月31日）

月	ツイート数		フォロワー数		インプレッション数	
	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)	今年度(R4)	前年度(R3)
4	30	18	8,751	8,362	107,980	108,889
5	26	15	8,762	8,373	95,373	86,963
6	27	18	8,804	8,391	118,065	131,530
7	26	26	8,820	8,415	75,338	187,307
8	25	27	8,820	8,418	72,275	175,245
9	32	31	8,825	8,445	64,731	136,165
10	27	33	8,866	8,484	56,220	211,367
11	24	28	8,886	8,519	40,573	113,272
12	25	32	8,905	8,596	74,090	125,737
1	24	39	8,947	8,660	48,568	182,283
2	14	49	8,946	8,667	33,474	138,229
3	15	43	8,959	8,736	41,081	144,193
合計	295	359			827,768	1,741,180

(2) 横浜市クリエイターデータベースの運営

ACY の活動の成果として、都心臨海部に集積するアーティストやクリエイターの力を市内の事業に繋ぎ、さらに横浜の魅力を生み出し発信していくことを趣旨に、グラフィックやWEB等のデザインに関わるクリエイターのプロモーションのための検索・紹介機能に優れたサイト「横浜市クリエイターデータベース」の運用を行っています。

【概要】

名称：横浜市クリエイターデータベース

URL <https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase/>

内容：クリエイターの制作事例、得意分野提案、会社概要を紹介するページで構成されたサイト。

今年度、ユーザビリティ向上のため、問い合わせ箇所の見やすさの改修を行っています。

登録者数：78組（うち今年度10組、前年68組）

登録者：グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っているデザイナー、もしくはその方が代表者を務める法人等。

利用者想定：企業、行政各部局、NPO等

2022年度アクセス数 207,620（前年 217,762）

(3) アーツコミッション・ヨコハマ ウェブサイト

URL：<https://acy.yafjp.org/>

2022年度サイトアクセス数：1,060,893（前年度 661,046）

今年度、ユーザビリティ向上のための全体の表示の改修、マイナーチェンジをはかっています。

また、WEB マガジン「創造都市横浜」終了に伴い、その記事をACYに移行する改修をしています。

5 関内外 OPEN!14



関内外OPEN!14では、「出航！スタジオツアーズ」と題し、デザイナーや建築家、アーティスト等、国内外問わず活躍するクリエイターがクリエイティブな空間やスタジオを紹介するスタジオツアーを中心に開催しました。

また、メイン会場となる関内えきちか広場では、アートやデザインにまつわるトークや本屋や屋台カフェを設置し、スタジオツアーに参加する人もそうでない人も楽しむことができる空間をつくりだしました。

(1)開催概要

日程：2022年10月1日(土)、2日(日)10:00～17:00

会場：関内えきちか広場(横浜市中区尾上町2周辺)、各クリエイターのスタジオ等

料金：入場無料(スタジオツアーズは500円)

主催：関内外クリエイターズ、アーツコミッション・ヨコハマ(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

共催：横浜市文化観光局

代表幹事：安食真 (studio nibroll)、岡部正裕 (voids)、小泉瑛一 (about your city)

木村薫 (14product)、吉田敏明 (明蓬館高校)

パビリオン設計・構造デザイン：SCALA Design Engineers 村上翔 + タナカマミヤアーキテクト 田中麻未也

映像制作：株式会社ブリッジ、中瀬俊介

広報・SNS 運用：サンキヤク株式会社、松村レイチェルみずき

協力：ミナトノアート2022実行委員会、株式会社泰有社、I'm home

NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、梅干しソー専門店、トビラ株式会社、Peatix、YOXO BOX

参加クリエイター数：99組

参加者：1087名

関内えきちか広場 675名(来場者 599名 スタッフ 76名)

スタジオツアーズ 294名(来場者 145名 スタッフ・拠点 149)

関係者パーティ 118名

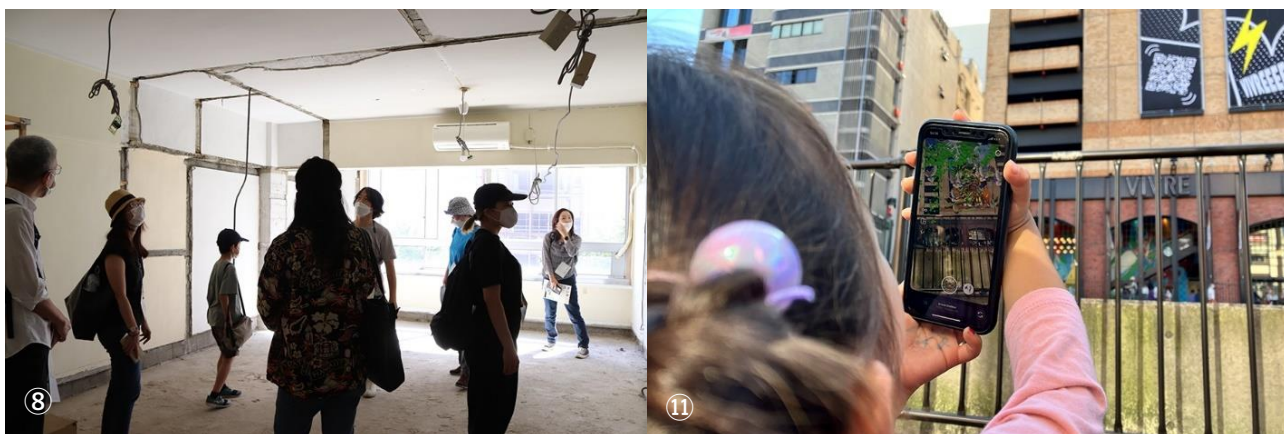
(2) 参加クリエイター等

	スタジオ名		スタジオ名		スタジオ名
1	相澤事務所	34	似て非 WORKS	67	I'm home
2	晃子てるぬま	35	日本工学院八王子専門学校学生有志	68	Kenxxxxoo
3	アキナイガーデン	36	ニューヤンキーノタムロバ	69	kita.
4	アートスペース『と』 関内	37	野毛山 kiez	70	Kitafuku
5	アトリエ・モビル	38	野毛ちかみちメディア広告	71	kiyomi's antiques
6	アルケリス	39	ピクニックルーム	72	Kuno Fall ASpeep
7	飯田善彦建築工房	40	ファブラボ関内	73	LAUNCH PAD GALLERY
8	梅干しサワー専門店	41	フィルズ	74	LOCAL GOOD YOKOHAMA
9	悦計画室	42	ブリッチ	75	LOOVIC
10	オンデザイン イッカイ	43	前田篤伸建築都市設計事務所	76	mass×mass 関内
11	オンデザインパートナーズ	44	松村 レイチェル みずき	77	MOZMENE
12	加藤甫	45	マツモトコーヒーロースターズ	78	N and R Foldings Japan
13	神奈川大学建築学部上野研究室	46	モ・クシュラ	79	NUMBER NINE BREWERY
14	からこそ BOX	47	横浜ビール	80	ODIODI
15	木下直人+片桐三佳	48	吉田ゆう	81	OMEGA
16	クラフトワークス	49	ライトハウス	82	Petrichor Anji Kato
17	小泉明郎	50	ルーヴィス	83	REVO BREWING
18	ことぶき協働スペース	51	若葉町ウォーフ	84	ROUROU
19	コトラボ	52	渡辺 篤	85	SCALA Design Engineers
20	横浜コミュニティデザイン・ラボ	53	14product	86	Shubidua
21	齊藤真菜	54	7artscafe	87	SITE BAY YOKOHAMA
22	さくら WORKS (関内)	55	Abanba	88	STGK Inc.
23	櫻井計画工房	56	about your city	89	studio nibroll+lab.
24	佐藤翔平 (くっくショーヘイ)	57	Arcade Books	90	SUZUKIMI
25	佐野屋本店	58	Archishop Library & Café	91	TDL アーキテクト
26	サンキャク	59	Art Connect Yokohama	92	THE DARKROOM INTERNATIONAL
27	下町編集室 OKASHI	60	BALANCE FLOWER SHOP -KITANAKA-	93	THE RABBITS' BASE
28	シネマ・ジャック&ベティ	61	CHA	94	ブレ恋制作実行委員会
29	泰生ポーチフロント	62	Contemporaries	95	tokiwa202
30	竹本真紀	63	Designbase	96	tote architects LAB
31	ディアベリー	64	G Innovation Hub YOKOHAMA	97	voids edit+design
32	とくにわ	65	Gallery+Sushi 三郎寿司あまね	98	YOKOHAMA SEASIDER MAGAZINE
33	中瀬俊介	66	Goozen	99	YONG architecture studio

(3) スタジオツアーズ

横浜・関内外エリアのキーマンとなるクリエイターがツアーコンダクターとなり、クリエイティブな空間やアトリエを紹介するスタジオツアーを開催しました。

- ① 不老町・寿町・石川町。異なるまちの暮らしに触れるツアー
- ② 弘明寺にアートってあるの？ はい、あります。すごいです。
- ③ 濃い！黄金町アートツアー
- ④ 本にまつわる関内駅周辺ツアー
- ⑤ トキワ／シンコー(ビル) 荘 隣のクリエイター
- ⑥ 泰生ビル・泰生ポーチ 入居者のスタジオを巡るツアー
- ⑦ クリエイターと話せて巡る、横浜クラフトビール醸造所ツアー
- ⑧ 関内の建築家とめぐる建築ツアー
- ⑨ 関内外 OPEN！が生まれ出す横浜のスタートアップとクリエイターの共創
- ⑩ 野毛山の麓がアツい！藤棚戸部のホットスポット をめぐるツアー
- ⑪ ミナトアート 2022『ミナトノ AR アートフェスティバル』
- ⑫ 吉田町防火帯建築×大岡川沿いの街歩きツアー
- ⑬ 野毛界限～写真とメディアをめぐるツアー
- ⑭ てくてく下横 横浜の下町 末吉町・若葉町・横浜橋をあるく
- ⑮ 誰もがクリエイターになれる時代にクリエイターができること デザインアウトサイダーの挑戦！山下町～元町をめぐる



(4) メイン会場

関内えきちか広場に、街へ繰り出していきたくなる”港”のような場所を創出し、「ふ頭」をイメージして作られるパビリオンのもとで、トークイベント等を開催しました。

① 「50組×20mの波止場」

TDL architects 田野耕平＋神奈川大学建築学部上野研究室＋日本工学院八王子専門学校学生有志

② 「LOCAL BOOK STORE kita. | POPUP STORE」Mass×Mass 関内

③ 「tocotoco 屋台カフェ」一般社団法人からこそ BOX

④ 「こどもプレイエリア | こども WORKSHOP」ピクニックルーム

⑤ トークイベント「関内外 OPEN! とは？ 14年の振り返りと未来に向けてのトーク」

⑥ トークイベント「横浜拠点地方でも活動しているクリエイターが改めて感じている横浜らしさ」



スタジオツアーではクリエイティブな拠点を面的に紹介することで、関内外エリアだけでなく、横浜の町に広がる魅力を紹介することができた。クリエイター自身がコンダクターを務め、それぞれ趣向を凝らしたツアーになったことで、普段体験することのできない非日常感を演出でき、参加者の満足度が高かった。

6 ミナトノアート 2023

〈趣旨〉

街ぐるみでアートビジネスを盛り上げ、アートをもっと身近に、街をもっと楽しく。

- ・アーティストの成功体験を生み出す。
- ・地元のアート応援者をつなぎ、増やす。

〈目標〉

☆「アートの街」として信頼性向上へ、まず下記の状況の「見える化」を目指す

- ①横浜に身近にアートを買う、見るギャラリーやショップなどがある。
- ②多様で質の高いアーティストが発表している。
- ③横浜でアートをビジネスにしたい人がいる、プロモーションをしたい人がいる。

これらを横浜の魅力として発信し、来街者や住民の回遊性を高める仕掛けを実施する。

これにより参加会場にこれまでになかったお客様(新客)のご来場があることを目指す。

〈今年度の工夫(昨年度比較)〉

■アート企画としての趣旨を強め会場の回遊性を増加させるべく参加会場数と期間の変更

- ・会期を延ばす(昨年 9 日→今年 18 日+プレ期間 14 日設ける)
- ・アートギャラリーの企画に絞って参加数を絞り込む(昨年 80→今年 33)

■人の集まる場所での展開—横浜駅周辺企業様と連携を広げる

- ・最新技術を生かしたミナトノアート AR フェスティバルを実施。
- ・社会包摂の視点で行う展覧会、地元でファッション、雑貨、ものづくり販売等の商売を行う人達を集めたマルシェを開催。

■アーティストを直接応援

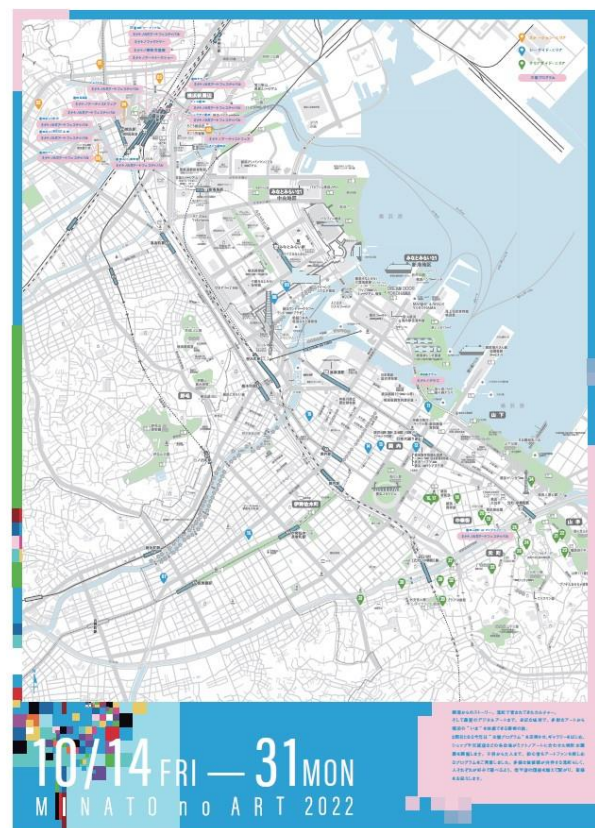
- ・主催イベントを複数実施し、販売から展示、ライブまで多くの機会をつくる。

■出展者やギャラリーの交流

- ・象の鼻テラスで交流会を開催。また事前にフリーペーパーを発行する。

■認知度、広報

- ・企業連携、主催イベントを増やし、人が集まる場所での開催によるプロモーションを行う。



(1) 開催概要

期間:2022年10月14日(金)~31日(月)

参加ギャラリー会場:33会場

主催イベント(来場者数)期間

- ・ミナトノARアートフェスティバル(10,000名) 10月1日(土)~31日(月)
- ・ミナトノアーティストフェア(1,000名) 10月12日(水)~18(火)/18日(火)~31日(月)
- ・ミナトノファクトリー(1,500名) 10月15日(土)、16日(日)
- ・ミナトノテラス(130名) 10月25日(火)~31日(月)
- ・ミナトノ芸術交差展(800名) 10月24日(月)~31日(月)
- ・ミナトノアートークショー(30名) 10月22日(土)
- ・プレイベント 馬車道駅マルシェ(140名) 9月23日(金・祝)

来場者数:のべ13,600人(主催イベントのみ)

HP <https://minatonoart.jp/>

SNS ・Instagram <https://www.instagram.com/minatonoart/>

・Facebook <https://www.facebook.com/minatonoart/>

・Twitter <https://twitter.com/minatonoart>

<運営体制>

主催 :ミナトノアート2022 実行委員会

委員長 :田口竜太郎(Gallery+Sushi あまね、株式会社アマネプロ)

副委員長:大野愛(かもめぐみ)

実行委員:内藤正雄(favoris.inc)、佐藤航(GardenGrove 合同会社)

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

事務局員:木村いよ(Atelier fourteen)、熊田えり子(ikih)

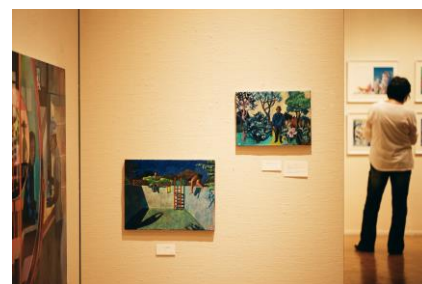
共催 :横浜市文化観光局

協力 :AlphaTheta 株式会社/シアル横浜/ジョイナス/象の鼻テラス/そごう横浜店/株式会社泰有社/ニ
ュウマン横浜/Facebook Japan 株式会社/ 横浜高速鉄道株式会社/YOKOHAMA Station
City 運営協議会/横浜高島屋/一般社団法人横浜西口エリアマネジメント/ 横浜ビブレ/横浜
モアーズ/横浜元町ショッピングストリート(五十音順)

(2)参加ギャラリー

西洋館のある山手の丘から元町、中華街へと広がる“クリフサイド”。横浜駅がある“ステーション”、山下公園や象の鼻パークがある海沿いから関内、長者町、馬車道、吉田町、野毛と呼ばれる地区へと広がる“シーサイド”、3つのエリアにある33会場では様々な展示や体験をお楽しみいただきました。

<参加ギャラリー>Labo、cafe&shop kaguya、GALERIE PARIS、LANDER、BALANCE FLOWER SHOP、特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜、爾麗美術 GALLERY NIREI ART、1010美術 1010Art Gallery、Art Baboo 146、art Truth、G8DSTAND、ArtGallery 山手、Ikeda Schmuck、岩崎博物館(ゲーテ座記念)、FEI ART MUSEUM YOKOHAMA、KAMINARI、横浜マリンタワー、横浜グラスルーツ、横浜高島屋、そごう横浜店、一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館、CROCO ART FACTORY、gallery fu、Gallery+Sushi あまね、MAGO GALLERY YOKOHAMA、ATELIER.K ARTSPACE、Restairs、Art gallery OWL-アウル、PLUS.M cafe gallery、LAUNCH PAD GALLERY、f.e.i art gallery、altoyo、横浜ビブレ2階 特設会場(エスカレーター横)



©東玄太

(3) 主催イベント

①ミナトノ AR アートフェスティバル

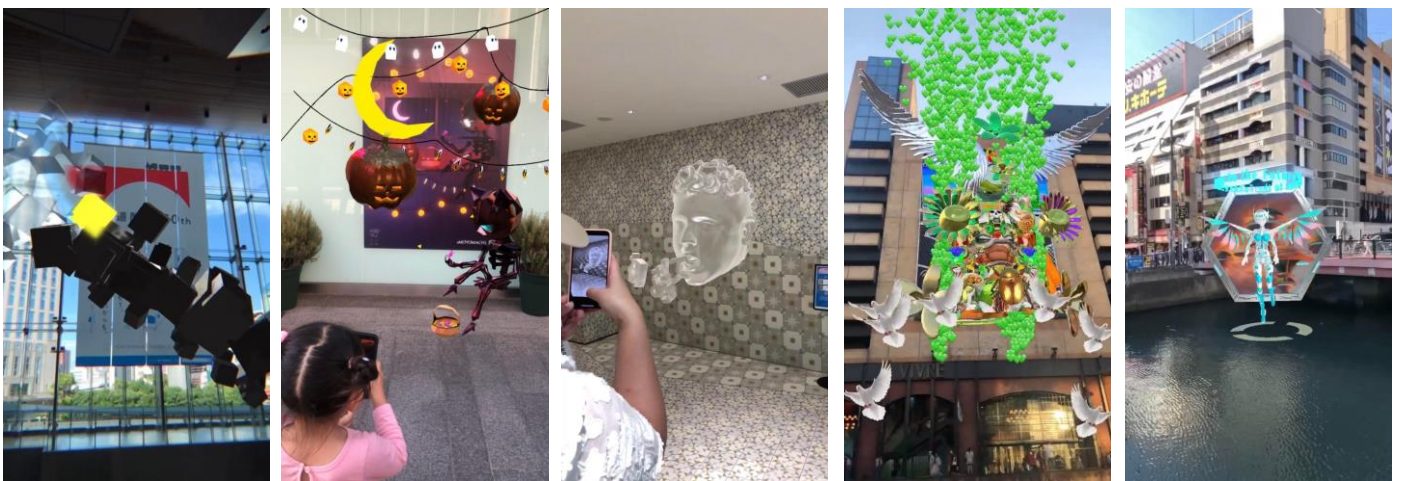
アジア最大規模のソーシャル AR アートフェスティバル。スマホをかざすと街なかに突如あらわれる AR(拡張現実)の巨大アート。港町横浜の街並みに最新のデジタルアートが融合。横浜の街と街、ミナトノアート 2022 の各会場をデジタルで繋ぎました。

世界でも活躍する国内の AR アーティストに加え、海外の著名なアーティストも多数参加し貿易港として開港より栄えてきた横浜らしい国際色豊かなアートフェスティバルとなりました。

プラットフォームは、国内でも登録者数の多い“Instagram”を使用し、誰にでもわかりやすく、お気軽に AR アートに触れる機会を生み出していました。

〈参加アーティスト／国名／会場〉

Kenxxxxoo(日本)(JR 横浜タワー アトリウム)、Petrichor Anji Kato(日本)(横浜元町ショッピングストリート)、Julia(ウクライナ)(横浜高島屋)、Allan Berger(オーストリア)(横浜モアーズ)、Asagi/アサギ東京(日本)(ジョイナス)、solar.w(ロシア)(シアル横浜)、omega.c(ドイツ)(ニューマン横浜)、Anne Horel(フランス)(横浜ビブレ)、Cybernerdbaby(マレーシア)(横浜西口 | 幸川)、Sufee Yama(タイ)(横浜西口 | 南幸橋)、Juliah Champion(タイ)(横浜西口 | 南幸橋)、Kuno Fell Asleep(日本)(横浜西口 | niigo 広場)



②ミナトノアーティストフェア

独自の感性で作品を生み出している、横浜ゆかりの 11 名の作家を横浜高島屋とそごう横浜店で紹介しました。展示される絵画や写真などの作品は気軽に飾れるサイズで、身近にアートを楽しめる展示販売会となりました。

〈会場〉 横浜高島屋 7 階インテリアスタジオ 10/12(水)~18(火)

そごう横浜店 6 階=インテリア雑貨売場 特設会場(美術館通り)10/18(火)~31(月)

〈参加作家〉横浜高島屋:猪本大介、山本千尋、Liu Ling、そごう横浜店:KIM ISEOL、KYAN-DOG

葉栗翠、吉永蛍、襟草丁、珈琲鳥子、下濱美久、Rafael Lima Itoh



③ ミナトノファクトリー

アーティストや職人の作業現場に迷い込んだかのような感覚が楽しめるリアルな体験型イベントとして開催しました。JR横浜タワーアトリウム 2F、3F、4F それぞれに散らばる「MARCHÉ ブース」「PERFORMANCE ブース」「WORKSHOP ブース」「FACTORY ブース」を巡りながら、国際都市・横浜ならではの SDGs やアップサイクルを体感でき、大人から子どもまで幅広い世代に楽しんでいただきました。

〈会場〉 JR 横浜タワー アトリウム 2F、3F、4F

〈参加店〉Ikih(天然石アクセサリー)、socks nanoda(靴下アート)、sui(真菰 まこも)

Petit Croquis (イラスト/岩絵具アート)、2106 Art Labo(写真)、soranite(ネイル)

huri(ネイル/アクセサリー)、言霊筆師 瑠紗(書道アート)、MĀLAMA Art & Design(サステナブルアート)、

スタンドグラス おどる虫工房(スタンドグラス)、革作家 yokoji(革小物)、LululuPanSea(アクリルペイント)、

CAFE COMMON(料理教室)、地球のかけら(天然石マスクイヤリング)、Dr.Yoshi(タロット占い)

A-unfil(マクラメ編み小物)、Candle-NAO(ボタニカルキャンドル)、Atelier loisir(ボタニーペインティング)、

Apr.アロマサロン(アロマ)、「ラテンの宴」NIL(ラテンとアート)、「ラテンの宴」まんぼばか(ラテンとアート)、

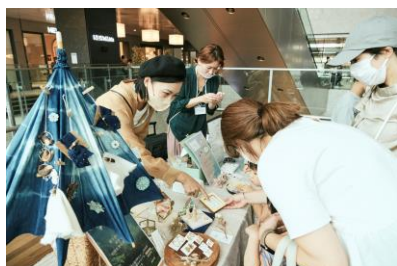
G8DSTAND CBD CAFE&SHOP (CBDmarket)、Hotolie(松井奈穂)、Mai yah Hi(キャンドル)

atelier cervo(レザークラフト)、Atelier fourteen(金継ぎ)、Flower& Green Mizutama(花)、

Sympatique(ヴィンテージ服)、Restairs(古着)、sheol(古着)、youth vintage(古着)、Butter Vintage

(古着)、altoyo(うつわ)、miñangos(ヴィンテージ雑貨・古着)、Asara(エシカルアクセサリー)、松村宗亮

(SHUHALLY)(茶の湯)、松井咲(SAKURA J SOUNDS)(箏)



©東玄太

④ ミナトノ芸術交差展

障害者スポーツ文化センター横浜ラポールと協力し、同施設が主催している美術展に出展しているアーティストと、プロのアーティストが 同じ場所で平等な条件で展示を行う合同企画展。

今回はじめて JR 横浜駅を舞台に、障害の有無や年齢/性別、ジャンル等の枠組みを超えこれまでにない共生社会や多様性を表す新たな作品展を開催しました。

〈会場〉 JR 横浜タワー アトリウム 2F 〈協力〉ラポール横浜 / ラポール上大岡

〈参加作家〉澁谷忠臣、Gravityfree、KensukeTakahashi、KAREZMAD、LUISE ONO(オノルイーゼ)

河野真弓、unomor、Mr.Blury、JUNK-R、杉本聖奈(すぎもとまりな)、上澤彩世、新村雄次、

シモン ミラニモポ、藪岡勇登、中村崇浩、門多隼也、石原陸郎、北澤雄、亀岡たわ太、鈴木紅杏

Sari-Kiwa-Pippi



©東玄太

⑤ ミナトノテラス

ミナトアートに関わる作家をピックアップした展示、ライブペインティング、ARワークショップ。10/29はDJやLIVEパフォーマンス、ダンス、映像等の複合イベントを開催しました。本企画は、ミナトアートの交流の場でもあり、そのネットワークが生み出す横浜の“今”の面白さを多くの方に感じていただける場となりました。

〈会場〉象の鼻テラス（協力）象の鼻テラス、AlphaTheta株式会社、株式会社丸加

〈参加作家〉澁谷忠臣、MAJIO:マジオ、etienne tanaka、KUKAN、大野愛、GardenGrove、nuito Kenxxxxoo、CHIHIRO HITOMI、DJ HASEBE、DJ TAKA (HEAD★HUNTERS)、伊東篤宏、メガネゴーマックス剛田、藤本ショーン、郡司 泉、加藤臣也、kentaro nagata、岩崎佐和、Masao Naitoh 高松マキコ、human error



©東玄太

⑥ ミナトアートトークショー

ミナトアート 2022 の開催にあわせて、ミナトアートの活動を知ってもらうこと、アートをもっと身近にすること、横浜で活動する人々を紹介することを目的に、多くの人々が往来する JR 横浜タワーにて関係者によるトークショーを行いました。

〈会場〉

JR 横浜タワー アトリウム2階



⑦ 馬車道駅マルシェ

イベントとして、馬車道駅構内でファッションやアンティークなどのマルシェイベントを開催しました。

〈参加店舗〉SYMPATHIQUE(ヴィンテージ古着)、miñangos Antiques & Sundries (ヴィンテージ雑貨)、sheol (古着)、youth vintage(古着)、Restairs (古着)

〈会場〉みなとみらい線 馬車道駅構内 B2 改札階

昨年度よりも主催会場数を増やし、百貨店でのフェアや駅なかのマルシェ、展示ライブイベントなどで、アーティスト、クリエイターのプレゼンテーション機会を前回に比べて増やした。人が通る会場と連携したことで「ミナトアート」にはじめて参加する人は増えている。身近さ、気軽さにおいて取り組みの効果が出ている。

7 ドックヤードガーデン活用事業(施設名:BUKATSUDO)

ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社(横浜市、三菱地所(株)、三菱地所プロパティマネジメント(株)、(株)リビタ、当財団)で協力し運営しています。

“大人のためのシェアプレイス”をコンセプトに作られた施設は、6 年を経過しみなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。コロナ禍においては、みなとみらいの施設が時短や閉めるなかで、継続して施設を運営し、ステイホーム中の住民などの憩いの場となりました。町のソフトインフラとしての役割を担うようになっていきます。

2024 年 5 月で現行契約満了となるため、継続運営について協議会を通じてリビタ社と交渉、その道筋をつくる 1 年となりました。

8 WEBアートイベントカレンダー「ヨコハマ・アートナビ」運営業務

実施時期:2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日

内 容:

(1)横浜の芸術文化活動を紹介するwebアートイベントカレンダー

「ヨコハマ・アートナビ」の運用【別紙①】

公式ウェブサイト:<https://artnavi.yokohama/>

公式 Twitter: https://twitter.com/art_yokohama

公式 Instagram:https://www.instagram.com/art_yokohama/

①横浜市内で開催される、アートイベント情報の収集・掲載・管理

アートイベント情報数 2,037 件

アートイベント新規登録者数 111 件

②横浜市内のアートスポット情報の収集・掲載・管理

アートスポット新規掲載数 12 件

③記事コンテンツ「よむナビ」新規記事公開 【別紙②】

ようこそ区文へ!(区民文化センター紹介) 3 件

(2)同サイトの管理

不具合等なく、運用しました。

①システム(ワードプレス)運用・保守

②サーバー、ドメイン、SSLの運用・保守

③アクセス解析 【別紙③】

④サイト改修 【別紙④】

※必要に応じて事業の詳細を説明する資料を添付してください。

別紙① ヨコハマ・アートナビ アクセス数・SNS 利用状況

ウェブサイト ※Google Analyticsのデータ

月	ページビュー数		ユーザー数（閲覧者）		イベント情報 新規掲載数		イベント登録ID申請新規件数	
	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)
4月	30,512	19,022	12,652	7,600	188	157	8	10
5月	38,242	17,795	15,917	7,419	164	141	11	7
6月	35,158	19,782	13,806	8,193	139	161	12	10
7月	37,207	24,470	14,346	10,390	184	211	7	14
8月	44,420	22,052	16,739	8,847	221	194	10	5
9月	44,584	29,223	17,367	12,575	202	199	9	15
10月	45,718	35,802	18,366	15,500	132	176	10	11
11月	40,856	29,829	16,405	13,283	177	154	12	6
12月	31,486	32,634	13,107	17,902	140	127	6	7
1月	37,111	28,309	14,488	12,319	172	153	10	4
2月	38,358	22,713	15,358	9,363	153	155	9	4
3月	37,924	35,695	16,007	18,234	165	175	7	10
合計	461,576	317,326	184,558	141,625	2,037	2,003	111	103

ツイッター ※令和1年度8月運用開始 ※インプレッション数=Twitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数

月	ツイート数		インプレッション数（表示）		新規フォロー		Twitterからのサイト流入ユーザー数（R4）
	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)	
4月	137	53	53,092	56,937	24	87	406
5月	121	120	70,623	87,396	32	77	638
6月	124	143	65,118	89,267	29	17	623
7月	163	184	91,249	124,353	38	26	592
8月	162	137	73,871	150,506	42	23	520
9月	151	148	86,223	143,106	42	46	598
10月	121	128	92,951	66,366	37	55	504
11月	136	104	88,600	37,593	27	34	428
12月	128	114	61,888	54,948	19	15	499
1月	122	102	74,011	100,031	17	21	409
2月	139	122	70,929	70,748	17	27	644
3月	107	145	76,509	74,848	26	36	427
合計	1,611	1,500	905,064	1,056,099	350	464	6,288

インスタグラム ※令和1年度8月運用開始

月	投稿数		新規投稿へのいいね		新規フォロー	
	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)	今年度 (R4)	前年度 (R3)
4月	0	0	0	0	0	3
5月	0	1	0	9	0	8
6月	0	0	0	0	0	4
7月	5	0	49	0	24	2
8月	8	0	36	0	9	10
9月	4	0	56	0	9	10
10月	4	0	51	0	14	7
11月	8	0	110	0	14	12
12月	12	0	134	0	9	3
1月	7	0	92	0	8	14
2月	4	0	73	0	13	4
3月	5	0	25	0	6	11
合計	57	1	626	9	106	88

別紙② 記事コンテンツ「よむナビ」掲載記事一覧

区民文化センターを順次紹介していく「ようこそ区文へ！」を一昨年度から継続して実施し、今年度で完了。

公開日	記事の名称
12/9	ようこそ区文へ！ vol.9 緑区民文化センター みどりアートパーク
12/20	ようこそ区文へ！ vol.10 神奈川区民文化センター かなつくホール
3/17	ようこそ区文へ！ vol.11 泉区民文化センター テアトルフォンテ

別紙③ アクセス解析:Google Analytics に基づく

ヨコハマアートナビ 令和4年度報告書(2022年4月1日~2023年3月31日集計分)

ページビュー(PV)数

461,576 人 前年 317,326
前年比 145.5%

ユーザー数(閲覧者)

184,558 人 前年 141,625
前年比 130.3%

イベント情報 新規掲載数

2,037 人 前年 2,003
前年比 101.7%

ページ別PV数 TOP10

	タイトル	PV数
1	トップページ	57,336
2	アートイベント:音楽	7,295
3	アートイベント:検索ページ	5,416
4	アートイベント:指定なし	5,182
5	アートイベント:みなとみらい	5,049
6	アートイベント:写真・映像	4,323
7	アートスポット:すべての区・美術館	3,906
8	アートスポット:港南区民文化センター ひまわりの郷	3,771
9	アートスポット:すべての区	3,666
10	アートイベント:美術	3,661

アクセス元の地域 TOP10

	アクセス元の地域	ユーザー数
1	(not set/分類できない)	47,355
2	横浜市	42,516
3	渋谷区	6,193
4	川崎	3,743
5	大阪	3,667
6	千代田区	2,493
7	世田谷区	2,468
8	港区	2,373
9	新宿区	2,230
10	埼玉	2,202

ブラウザの種類 TOP10

	ブラウザ	デバイス	ユーザー数
1	Safari	mobile	67,100
2	Google Chrome	mobile	36,948
3	Google Chrome	desktop	22,069
4	Edge	desktop	13,672
5	Safari (in-app) ※アプリ内	mobile	12,231
6	Safari	desktop	8,842
7	Android Webview	mobile	8,147
8	Safari	tablet	2,219
9	Firefox	desktop	1,613
10	Chrome	tablet	1,581

検索キーワード (Google) TOP10

	検索キーワード	クリック数
1	横浜 美術館	5,707
2	横浜美術館	2,038
3	横浜 アート	1,776
4	沖香菜子 夫	872
5	横浜アートナビ	622
6	ひまわりの郷	619
7	みなとみらい アート展	606
8	ヨコハマアートナビ	598
9	横浜 展覧会	555
10	横浜市教育会館	503

流入元サイト TOP10

	検索キーワード	ユーザー数
1	Googleの自然検索経由	101,411
2	Yahooの自然検索経由	36,669
3	URL直接入力か計測できず経路不明	20,519
4	Twitterの自然検索経由	6,004
5	bingの自然検索経由	3,138
6	ドコモ d Menuからのリンク経由	1,893
7	横浜市役所サイトからのリンク経由	1,515
8	Facebook上のリンク経由	1,192
9	横浜市観光情報サイトからのリンク経由	1,057
10	横浜みなとみらいホールサイトからのリンク経由	812

別紙④ サイト改修:アクセス解析やアンケート等に基づく

(1)アクセス解析・アンケート等を反映したUI(ユーザーインターフェイス)の改修

改修日	改修概要
6月	◇アートスポット ・新着アイコン設置
11月	◇アートイベント:ジャンル ・「科学・技術」「乗りもの・交通」追加 ◇アートイベント:料金・対象 ・掲載順を関心度の高さにあわせ変更 ◇アートイベント:エリア ・「みなとみらい・桜木町・新港」「関内・馬車道・日本大通り」「元町・中華街・山手」「本牧・根岸」「横浜駅」「横浜・北西(あざみ野・長津田・中山)」「横浜・北(日吉・菊名・新横浜)」「横浜・北東(鶴見・神奈川・東神奈川)」「横浜・中央(保土ヶ谷・二俣川・戸塚・上大岡)」「横浜・南(磯子・本郷台・金沢文庫)」というエリアに再編 ◇アートスポット:カテゴリー ・「美術館・博物館・資料館」を「美術館」「博物館・資料館(歴史・科学・交通 等)」「文学館・図書館」に分割
12月	◇アートイベント:トップページ ・新着イベントへのリンク追加

(2)アンケートの実施

9月に、日常的にやりとりのある121団体(個人は除く)に利用者アンケートを実施し、79団体から回答(回収率65%)を受領。